

12月1日「地方創生☆政策アイデアコンテスト2020」近畿経済産業局長賞の表彰式及びプレゼン会が開催され、本校生活科



学科地方創生班2班が表彰状を授与されました。昨年度に引き続き連続受賞となります。今年は新型コロナウイルス感染が続く

中、地道に研究を重ねまとめあげた成果が評価されたのだとプレゼン資料を見ながら感心させられました。そのうち「A challenge in KATO～もち麦で革命を～」の研究を行ったK班が全国大会へのリモート出場を決めました。72回生が商品開発を行った「スープで食べるもち麦」の生産終了に伴い共同開発して下さった「株式会社マルヤナギ小倉屋」から原因分析された内容をいただき、加東市役所、マルヤナギ、まちづくりコンソーシアム、飲食店の協力を得て調査研究を進めたようです。調査内容は昨年度より踏み込んだものになり、第一次産業から第二次、第三次産業までの連携を考え、地域活性化につなげたいとの発表でまとめられています。学校と地域、企業の連携を目指す本校の取組は、まだまだ継続されますが、全国的な評価をいただけることに関しては先進的な取組と言えますし、その取組を実行してくれている生徒の皆さん、先生方の努力に頭が下がります。もち麦の知名度を上げさらに活性化できるような仕掛けを考えてほしいと思いました。



一方T班は、「360万人の観光客を加東市へ」というテーマで分析をして地域活性化につなげていこうとするものです。加東市の

知名度アップに何が必要か、若者と高齢者への発信方法を考えたり(You Tube の利用)、ツアー企画、ふるさと納税返礼品の工夫をしたりするなどの提案内容を考えた発表でした。先日のツアー企画でもその工夫がされており、実践体験を含めた内容であるため今後に向けて実現性が高くなっていくものと思われます。こちらも継続した研究により達成可能な目標となるため、引き続き加東市の魅力発信に努めてもらえればと思います。残念ながらこちらの発表は全国大会での発表機会はないのですが、2班とも成果が認められ本当に良かったです。受賞おめでとございます。

12月2日からは期末考査が始まりました。早いもので2学期が終わります。週明けの最後まで全力を尽くしてほしいですね。またこの定期考査は、授業の理解力を図るものです。先生方はおよそ平均60点を目安に問題を作成されているかと思えます。面談をしても、苦手な科目がある生徒は多いです。まずは得意な科目を確実にものにし、苦手な科目はとにかく覚えることです。自分自身のモチベーションを上げなければ身につけませんので、時間だけかけてもダメです。具体的にやることを決めて確実に点数の取れるものを増やしていきましょう。

期末考査後は、午前中授業となります。1・2年生は職業別懇談会、進路ガイダンスや講演会等授業以外に皆さんの進路実現に必要な話を聞く機会があります。将来就くであろう職業観を養うためにも、また働くというイメージを持つためにもしっかりと関心をもって臨んでほしいと思います。3年生は次のステージに向けた準備を進める人が多くなってきました。何を準備していくかで4月以降のスタートがスムーズにできるかが変わってくると思います。気を抜くことなく卒業後の自分をイメージして残りの高校生活を送ってください。進路が決まっていない人は最後まであきらめることなく挑戦しましょう。まだまだ新型コロナの感染も続いています。できる感染防止をしっかりと、「感染しない、させない」行動をとっていきましょう。よろしくお祈りします。